

さっぽろ南大橋クリニック

心不全再入院予防へ多職種勉強会

リハビリ室など施設見学も実施



再入院予防継続管理料」の新設を踏まえ、地域における心不全患者の継続的な支援体制づくりが目的。看護師、ケアマネジャー、理学療法士、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなど53人が参加した。

講演した札幌医科大学循環器・腎臓・代謝内分沁内科学講座の矢野俊之准教授は、心不全再入院

予防には患者のわずかな体調変化を捉え、多職種間で速やかに共有することが重要と解説。多職種ハートチームによる介入が、心不全患者のイベント発生リスク低減につながるとした。

木村理事長は、同クリ

ニックが訪問診療で支援している重症心不全患者の事例を報告。病院での治療を在宅へ切れ目なくつなぐため、退院前から病院側と訪問看護、医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャー等が緊密に連携し、治療内容だけでなく生活環境や本人・家族の意向を共有する実践を紹介した。

同管理料の狙いは、心不全診療を「病院内で完結する治療」から「地域で継続する管理」への転換。同クリニックは今回の勉強会を、地域の多職種が共通認識を持ち、顔の見える連携を構築する機会と位置付けている。

(加藤純広)

札幌市豊平区のさっぽろ南大橋クリニック（木村幸滋理事長・無床）は、開催した。2026年度診療報酬改定で「心不全

「地域で支える心不全治